

令和元年度 全国学力・学習状況調査 結果報告

4月に実施しました全国学力・学習状況調査の結果及び分析がまとまりましたので報告します。

本調査は、全国の小学校6年生・中学校3年生が実施しており、国語と算数の2教科と学習状況にかかる質問紙の調査で構成されています

1 調査目的

この調査は、子ども達への学習状況を把握し・分析し、学校における児童・生徒への指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

全国の公立小学校6年生および公立中学校を対象として今年度は、4月18日（木）に実施しました。

2 調査内容

調査は大きく分けて、教科に関する調査と学習意欲や生活習慣、学習環境などを見るアンケート調査があります。

(1) 教科に関する調査

<国語及び算数の2教科の調査>

○身に付けておかなければ、のちの学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。

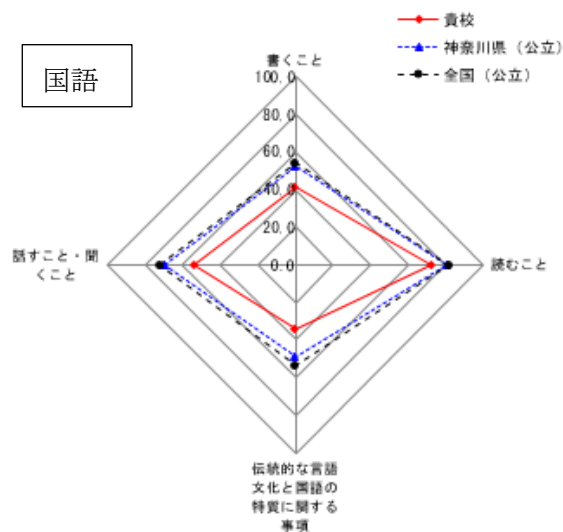
○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などに関わる内容。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

○学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面に関することを児童がアンケートに答える形の調査です。

国語では、「読むこと」の正答率が神奈川県や全国の平均値に迫る数値になっていました。それに対して、「書くこと」「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では平均値を下回る結果となりました。目的に応じて文章の内容を的確に押さえて読むことはできますが、自分の考えを分かりやすく伝えるために記述したり、考えが相手に伝わるように話したりすることに課題があることが分かりました。また、漢字そのものは覚えていても、文の中で正しく使うことができていないことも分かりました。

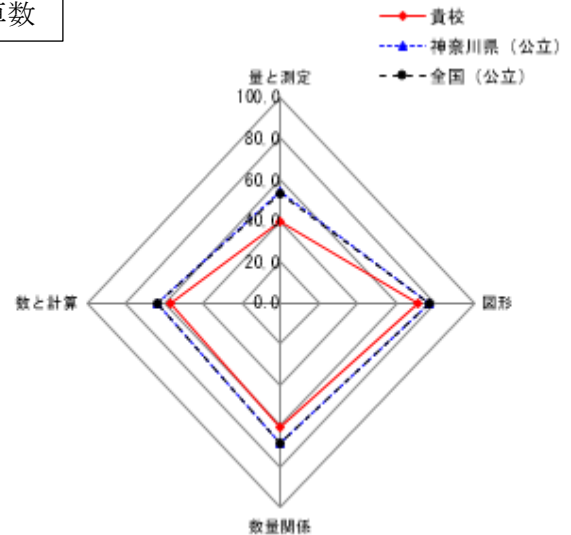
書く力をつけるには、低学年は「楽しく書く」、中学年は「題に沿って書く」、高学年は「目的や条件に合わせて書く」等の目標をもち、毎年積み上げていくことが大切です。宿や朝学習を通じて書く機会を増やし、実際に使うことができるようにしていきたいと思います。語彙を増やす取り組みは全学年で続けていますが、新しい言葉を増やすだけでなく、その言葉をあえて使う場面も取り入れていきたいと思います。



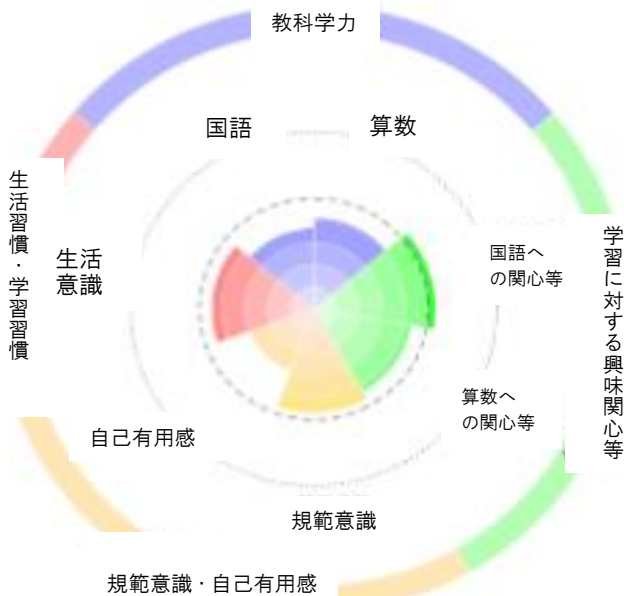
算数

算数では、「図形」「数量関係」については、全国平均に近い正答率でした。特に、台形についての理解や、棒グラフの読み取りに関しては、90%を超える値になっていました。その反面、「量と測定」では正答率が低く、図形の面積の求め方、四則が混合した計算、答えの求め方や計算の仕方の記述などに課題がありました。

正答率が低かった「量と測定」の問題は、問題文が長いので読み取りが不十分で、問題場面をイメージできなかったことがわかりました。今後の取組としては、図などを用いて問題場面をイメージすることで、最後まで問題解決ができるようにしていきたいと思えます。また、自分で文章問題を作る活動を取り入れ、文章問題への理解を深めていきたいと考えます。



児童質問紙(神奈川県基準)



児童質問紙の結果からは、国語学習への意欲が高いことがわかります。「国語の勉強は大切だと思う」「国語の勉強で学習したことは将来役に立つと思う」という項目では、90%を超えていました。国語はいろいろな学習の基礎になるもので、本校では、昨年度から校内研究として取り上げています。国際教室と各担任が連携して授業を行い、少人数で一人一人の課題に合わせて授業を組み立てられるように配慮してきました。「分かる授業」が「読む」力の向上につながり、学習意欲も高めているものと考えています。今後も授業改善を進め、児童が意欲的に学ぶことができるよう努めていきたいと思えます。

本校では、朝読書・朝学習の時間を設けて継続的に行い、学習状況の改善に役立てています。また、漢字検定・計算検定では、ご家庭の支援もあり児童たちは明確なめあてをもって取り組み、基礎基本の定着を図ることに役立っています。今後も、目的意識をもって自分で学習がすすめられるよう、努めてまいります。